

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	論理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	佐々木 尽	実務経験と その関連資格	大学院博士後期課程在学中			
《授業科目における学習内容》						
看護は痛みや不安といった〈言葉にしづらいもの〉とも日々向き合い、他方では患者さんやスタッフとつねに〈言葉〉を交わして仕事をします。言葉にしづらいものを丁寧にすくい取ってゆくことができるように、「書く」「読む」「まとめる」の三段階で言葉との関わりを始めましょう。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験(80%)、レポート(20%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナースのための実践論文講座 (人文書院) その他適宜授業中に紹介する。						
《授業外における学習方法》						
授業中に、言葉で「書く」「読む」「まとめる」ためにお伝えしたポイントを復習する。 言葉にしたいことを見つけていく。						
《履修に当たっての留意点》						
言葉にすることで、私の考えを伝え、相手からの言葉をもらうことができます。言葉が伝えるもの、言葉に支えられるものの不思議に出会いましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	本授業の概要を理解できるようになる。言葉への関心を持つ。	ナースのための実践論文講座 (人文書院)	テキストの内容を確認する	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション: 言葉の世界			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な文章の種類を知り、短い文章を書いてみるができる。	ナースのための実践論文講座 (人文書院)	授業内容の復習	
		各コマにおける授業予定	書こう! ① 論理的な文章とは何か 用紙の使い方			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	文章の構造に気を配ることができる。 相手に説明するための文章を書くことができる。	ナースのための実践論文講座 (人文書院)	授業内容の復習	
		各コマにおける授業予定	書こう! ② 文について、伝わる文章表現			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	段落を構成することができる。 まとまりのある読み物を読んで、意見を持つことができる。	ナースのための実践論文講座 (人文書院)	授業内容の復習	
		各コマにおける授業予定	書こう! ③ 段落と全体の構成			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	著者の主張と自分の主張を区別することができる。	ナースのための実践論文講座 (人文書院)	授業内容の復習	
		各コマにおける授業予定	読もう! 主張と論拠を探す			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの文章の書き方をおさえながら、要約を試みることができる。	ナースのための実践論文講座 (人文書院)	授業内容の復習
		各コマにおける授業予定	まとめたい！① 要約とは、文章を要約する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	著者の意見をまとめ、自分の主張を文章で書くことができる。	ナースのための実践論文講座 (人文書院)	授業内容の復習
		各コマにおける授業予定	まとめたい！② 批判的読解、文書表現		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	論文形式の文章について理解を深めることができる。知りたい情報の載った文献を探すことができる。	適宜指定する	授業内容の復習
		各コマにおける授業予定	まとめたい！③ 注と文献表、文献の探し方 終講試験(50分)		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	教育学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	佐々木 尽	実務経験と その関連資格	大学院博士後期課程在学中			
《授業科目における学習内容》						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育を多角的に捉え、教育の理論や方法に関する知見を深める。 ・教育現場に関わらず日常の場面において課題意識を持ち、看護との関連性について認識する。 ・ディスカッションを通して、相手の意見を踏まえながら自分の意見を構築する力を身に付ける。 						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験(80%) レポート(20%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 基礎分野 教育学 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
講義で学んだことを日常の中で、観察し記録すること(新聞記事など広く一般的な内容も収集しておくこと)						
《履修に当たっての留意点》						
各授業から得たことと課題(問いかけ)を持ち続けること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	教育が人に及ぼす影響について自らの考えを述べるができる。	テキスト、プリント	あなたに影響を与えた教師とはどんな人だったかを振り返っておくこと	
		各コマにおける授業予定	教育とは、教育の意義、教育と人格形成			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習習得における、発達段階による様々な違いを理解する。	テキスト、プリント	授業で準備することを伝えます。	
		各コマにおける授業予定	学習理論と方法、発達段階と学習			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児期、小児期における学習、及び教育について理解する	テキスト、プリント	授業で準備することを伝えます。	
		各コマにおける授業予定	幼児期、小児期と学習、学習方法、教育的なかわり			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	思春期における学習、及び教育について理解する	テキスト、プリント	授業で準備することを伝えます。	
		各コマにおける授業予定	思春期と学習、学習方法、教育的なかわり			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	青年期、成人期における学習の意味、学習方法について理解する	テキスト、プリント	授業で準備することを伝えます。	
		各コマにおける授業予定	青年期、成人期の学習、学習方法、教育的なかわり			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年期における学習の意味、学習方法について理解する	テキスト、プリント	授業で準備することを伝えます。
		各コマにおける授業予定	老年期の学習と方法、生涯教育の意義、教育的なかわり		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	教育の評価方法について知る。	テキスト、プリント	授業で準備することを伝えます。
		各コマにおける授業予定	教育評価とは、評価の意義と方法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護師としての教育的なかわりについて自己の考えを述べる ことができる	テキスト、プリント	今までの資料を振り返れるようにしておくこと
		各コマにおける授業予定	授業を振り返り、患者への教育的なかわりについて、自分の意見をまとめる。終講試験(50分)		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	自然科学の基礎		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	皆巳 和賢	実務経験と その関連資格	大病院医学系研究科 在籍			
《授業科目における学習内容》						
看護の専門科目および専門基礎科目の理解を深めるための科学的知識の基礎について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
看護学生のための物理学 (医学書院) 系統看護学講座 基礎分野 化学 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
テキスト・授業資料をもとに、授業中考えたり計算したことを、復習する。						
《履修に当たっての留意点》						
復習を重視してください。この科目が苦手な方もいると思いますが、丁寧に復習すれば理解が深まります。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	モーメントと姿勢の関係について言える。	テキスト、プリント	テキストの内容確認	
		各コマにおける授業予定	物理現象 力:力のモーメント 美しい姿勢とは			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	重力と姿勢の安定・安楽の関係が言える。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、 テキストの予習	
		各コマにおける授業予定	物理現象 力:看護に生かすボディメカニクス			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	圧力が血圧・体重・褥瘡にどう影響しているかが言える。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、 テキストの予習	
		各コマにおける授業予定	物理現象 圧:圧力とは (血圧 体重 褥創)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	圧力と点滴・注射・吸引器の関係が言える。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、 テキストの予習	
		各コマにおける授業予定	物理現象圧力:点滴・注射・吸引器			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温制御のメカニズムが言える。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、 テキストの予習	
		各コマにおける授業予定	物理現象 熱:体温制御の物理			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療機器の原理が言える(超音波検査)	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	物理現象 音と振動:聴診器 音波と超音波 ドップラー法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	専門基礎科目の基礎となる無機化学、有機化学の基礎についてまとめることができる。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	化学 生命の星 地球 原子から分子へ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	分子の熱運動と物質の三態についてまとめられる。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	化学 分子の熱運動と物質の三態		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	分子の親水性と疎水性について説明できる。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	化学 分子の親水性と疎水性		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	専門基礎科目の基礎となる無機化学、有機化学の基礎について理解する。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	化学 水溶液の性質		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	参加と還元について説明できる。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	化学 酸化と還元		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂質・たんぱく質・糖の化学構造と機能の違いが言える。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	化学 脂質・たんぱく質・糖の化学構造と機能		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	ATPの役割について説明できる。拡散の役割について説明できる。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	化学 ATPの役割(化学構造と機能)、化学 核酸の役割(化学構造と機能)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	ビタミン・ホルモンの役割について説明できる。	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	化学 ビタミン・ホルモンの化合構造と機能		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ(重要ポイントの確認)	テキスト、プリント	前回講義内容の復習、テキストの予習
		各コマにおける授業予定	まとめ(重要ポイントの確認)、終講試験(50分)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	家族論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	三品 拓人	実務経験と その関連資格	大阪大学 大学院(博士課程)			
《授業科目における学習内容》						
社会の変化とともに変貌している家族をとらえ、家族の持つ機能と役割を学ぶ。また、自分の家族関係をふりかえり、自分の果たす役割も考えていく。そして医療従事者として対象者をとらえ、援助していくために家族を理解する						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
プリント配布						
《授業外における学習方法》						
授業で提示された課題に取り組むこと						
《履修に当たっての留意点》						
家族をめぐる問題について新聞・インターネット等で知識・情報を得ておくこと。またそれらの問題について自分自身の考えを述べる準備をしておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の構造と変貌する家族のあり方を説明できる	配布資料	授業で提示された課題	
		各コマにおける授業予定	家族制度の歴史、現在社会における家族の特徴			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代のお家族における問題について述べるができる。	配布資料	授業で提示された課題	
		各コマにおける授業予定	親子関係をめぐる問題			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の構造と生活を学習し、ジェンダーと家族について説明できる。	配布資料	授業で提示された課題	
		各コマにおける授業予定	現代の家族概念、ジェンダーと家族			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会集団としての家族のあり方を学び、本社会の家族内の地位と役割を説明できる	配布資料	授業で提示された課題	
		各コマにおける授業予定	家族内の地位と役割			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会集団としての家族のあり方を学び、システムとしての家族の機能について説明できる	配布資料	授業で提示された課題	
		各コマにおける授業予定	システムとしての家族、個人と家族の相互関係			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会集団としての家族のあり方を学び、本社会の家族の多様な文化を説明できる	配布資料	授業で提示された課題
		各コマにおける授業予定	家族の多様な文化		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会集団としての家族のあり方を学び、現代社会の子どもの社会化と親子関係を説明できる	配布資料	授業で提示された課題
		各コマにおける授業予定	子どもの社会化と親子関係		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会集団としての家族のあり方を学び、超高齢化社会における家族の役割と機能について説明できる	配布資料	授業で提示された課題
		各コマにおける授業予定	超高齢化社会の現状と課題、家族の役割と機能、終講試験(50分)		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	倫理学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	桑原英之	実務経験とその関連資格	大学院研究科研究員		

《授業科目における学習内容》

冊子にはむづかしいところ、昔々を考へる子向くもの。付に医療・福祉の現場には、市販の刊物が難し、後者は冊子的問題が山積している。例えば尊厳死、ART、代理母、臓器売買について正しく考え判断していくには、関連する医療・法・制度に関する正しい事実認識が不可欠であり、基礎知識の理解が不可欠である。この授業では正しい知識に基づき情報を整理しながら看護師として、患者として、その家族として、様々な立場に想像をめぐらせながら考える力を養うことを目的とする。

《成績評価の方法と基準》

終講試験100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

特になし。必要時に資料を配布する。

《授業外における学習方法》

指定したテキストを事前によんでおくこと。また講義に関連する報道・記事などに関心を持ち発展的理解に努めること。

《履修に当たっての留意点》

看護師は医療・福祉に欠かせないプロフェッショナルです。そしてプロはプロに見合う高い倫理観と高度な知識が必要です。自分で考え倫理的に判断できるプロとなるためしっかり理解してください。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	倫理について説明することができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの指定部分を事前に呼んでおくこと。 ・講義内容を復習し関連するニュース記事等がないか調べること。
	各コマにおける授業予定	イントロダクション:倫理の基本についての講義 倫理学とはどのような学問分野でありこの講義で何を何のために学ぶのか理解する。		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	なぜ医療・福祉分野で倫理的判断が難しい問題が生まれたのか説明できる。		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの指定部分を事前に呼んでおくこと。 ・講義内容を復習し関連するニュース記事等がないか調べること。
	各コマにおける授業予定	生命倫理登場の歴史的・社会的背景についての講義 医療・福祉分野で倫理が問われるようになった背景について理解する。		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	患者の自己決定の重要性について説明できる。		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの指定部分を事前に呼んでおくこと。 ・講義内容を復習し関連するニュース記事等がないか調べること。
	各コマにおける授業予定	輸血拒否裁判事例を通したインフォームドコンセントとパートナーリズムについての講義 自己決定の重要性と倫理的意義について理解する。		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	終末期医療における緩和ケアと鎮静をめぐる倫理について説明できる。		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの指定部分を事前に呼んでおくこと。 ・講義内容を復習し関連するニュース記事等がないか調べること。
	各コマにおける授業予定	終末期医療における患者中心医療と人生観についての講義 余命告知を受けたがん患者がどのように自らの生死・人生に向き合い看護師がどのように関わることが倫理的に大切であるか理解する。		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	過去の判例で示された安楽死要件及び新しいガイドラインの要点を説明できる。		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの指定部分を事前に呼んでおくこと。 ・講義内容を復習し関連するニュース記事等がないか調べること。
	各コマにおける授業予定	尊厳死と安楽死についての講義2 日本の過去の裁判事例と新しいガイドラインにおいてどのようなガイドラインがどのような理由により作成されたか理解する。		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの医療についての倫理ガイドラインやインフォームドアセントについて説明できる。		・テキストの指定部分を事前に読んでおくこと。 ・講義内容を復習し関連するニュース記事等がないか調べること。
	各コマにおける授業予定	重症新生児治療の差し控え・中止についての講義2 重症新生児や子どもの医療に関する倫理的ガイドラインやインフォームドアセントについて理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 移植医療の抱える倫理的問題点について説明できる。		・テキストの指定部分を事前に読んでおくこと。 ・講義内容を復習し関連するニュース記事等がないか調べること。
	各コマにおける授業予定	脳死・臓器移植の倫理的問題についての講義 臓器移植の方法と現状、脳死に関する基本的知識と臓器移植法で定められたルールについて理解について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 各回の講義内容を関連付けて全体像を説明することができる。		・テキストの指定部分を事前に読んでおくこと。 ・講義内容を復習し関連するニュース記事等がないか調べること。
	各コマにおける授業予定	講義全体を振り返り、改めて現代における倫理の意義について考える。 患者・家族・看護師に問われる倫理的問題と今後の課題について理解する。終講試験(50分)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	人間関係論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	岡田 玖美子	実務経験と その関連資格	大阪大学 大学院 在籍			
《授業科目における学習内容》						
社会心理学などの分野における先行研究、実験、事例などを通してすることを通して、人間関係の原理やメカニズムを理解する。授業は、基本的に講義スタイルで行う。内容の理解を深めるために、映像資料などを利用する。また、授業の進度によっては、グループによるディスカッションなども予定している。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
人間関係論(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
教科書を読む 自身の人間関係の気づき方を振り返る						
《履修に当たっての留意点》						
授業で提示した課題に取り組む						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間関係を論理的に解釈することができる。	テキスト、プリント		テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	イントロダクション 人間関係をどのように考えるか			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間関係について他者の行動や態度を論理的に解釈することができる。	テキスト、プリント		テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	人間関係の捉え方 他者を捉える視点			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間関係構築に必要な知識を身につけて、自己への理解を深める。	テキスト、プリント		テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	対話的關係 アイデンティティー			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分の行動や態度を論理的に解釈することができる。	テキスト、プリント		テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	アイデンティティー 表現の手段			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	「治す」とは別のケアについて知ることができる。	テキスト、プリント		テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	専門家の連携 「治す」とは別のケア			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	「死」について考え知ることができる。	テキスト、プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	「死」について考える		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	哲学対話について理解することができる。	テキスト、プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	哲学対話とは		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	今までの授業を振り返り、人間関係構築における自己の課題を述べることができる。	テキスト、プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	授業の振り返り、良好な人間関係構築における課題をまとめる。終講試験(50分)		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	三品 拓人	実務経験と その関連資格	大阪大学 大学院(博士課程)			
《授業科目における学習内容》						
心理学の基礎的知識として、人の認知・感情・欲求・学習・記憶・発達などについて概説し、モチベーションやリーダーシップにも触れていく。また、現代社会における大きな問題の1つでもある対人関係やメンタルヘルスについても概説する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
図説心理学入門 (誠信書房)およびプリント配布						
《授業外における学習方法》						
次回講義内容について予習しておく。						
《履修に当たっての留意点》						
ノートをとる、課題は期限を守る、講義中は他の学生の迷惑にならない、以上は最低限必要です。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学とはどのようなものかを理解し、表現できる。	パソコン、プロジェクター	使用教材を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	心理学とは			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知とはどのようなものかを理解し、表現できる。	パソコン、プロジェクター	錯覚について調べておくこと	
		各コマにおける授業予定	認知・感情			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	欲求とモチベーションの関係性について理解し、表現できる。	パソコン、プロジェクター	内発的動機づけについて調べておくこと	
		各コマにおける授業予定	欲求・モチベーション			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己呈示について理解し、表現できる。	パソコン、プロジェクター	吊り橋効果について調べておくこと	
		各コマにおける授業予定	自己呈示			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	対人魅力について理解し、表現できる。	パソコン、プロジェクター	セルフハンディキャップについて調べておくこと	
		各コマにおける授業予定	対人魅力			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	援助行動について理解し、表現できる。	パソコン、プロジェクター	傍観者効果について調べておくこと
		各コマにおける授業予定	援助行動		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ソリューション・フォーカス・アプローチについて理解し、表現できる。	パソコン、プロジェクター	ソリューション・フォーカス・アプローチについて調べておくこと
		各コマにおける授業予定	ポジティブ心理学・解決志向アプローチ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ワーク・エンゲイジメントについて理解し、表現できる。	パソコン、プロジェクター	ワーク・エンゲイジメントについて調べておくこと
		各コマにおける授業予定	ワーク・エンゲイジメント、終講試験(50分)		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学V		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	左 明	実務経験とその関連資格	医学博士 長年に渡る医療系専門学校等での、解剖生理学の教授経験あり 「早わかり解剖学ハンドブック」など医学の専門書の監修・執筆			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の人体についての知識の基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 解剖生理学Vでは、泌尿器の構造と機能、体液の調節を説明できる。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 早わかり生理学ハンドブック (ナツメ社)						
《授業外における学習方法》						
テキストと参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。 授業終了後に問題集(事前配布)と国家試験の過去問を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問し、その理解を高めること。また、積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。						
《履修に当たっての留意点》						
①知識は楽にして身に付きません。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要です。 ②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなりますよ。 ③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れません。本気に看護を目指しているのであれば、頑張れ!						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎臓の構造と機能、糸球体の構造と機能について説明できる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第5章 腎臓の構造と機能、糸球体の構造と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿細管の構造と機能について説明できる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第5章 尿細管の構造と機能			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	傍糸球体装置について説明ができる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第5章 傍糸球体装置			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	クリアランスと糸球体濾過量、生理活性物質について説明することができる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第5章 クリアランスと糸球体濾過量、腎臓から分泌される生理活性物質			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿の貯蔵と排尿について説明できる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第5章 尿の貯蔵と排尿			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	水の出納、脱水について説明できる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。友達同士で問題を出し合いながら学習すること。
		各コマにおける授業予定	第5章 体液の調節:水の出納、脱水		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	電解質の異常、酸塩基平衡について説明できる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。友達同士で問題を出し合いながら学習すること。
		各コマにおける授業予定	第5章 体液の調節:電解質の異常 酸塩基平衡		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器の構造と機能、体液の調節をまとめることができる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。友達同士で問題を出し合いながら学習すること。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	英語 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	山崎絵馬(ILC)	実務経験と その関連資格	大学や高等学校、企業等にて長年の教授経験有り			
《授業科目における学習内容》						
医療現場での英会話を想定し、会話に必要な英語による医療用語を学び、コミュニケーションを中心とした授業を行う。最低限の日常会話能力や講義内で使用される専門用語の理解に寄与する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験(100%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:ILC国際語学センター:医療英語コミュニケーション. 特定非営利活動法人 医療・福祉英語検定協会						
《授業外における学習方法》						
準備学習は特に必要ありませんが、医療分野での専門用語が多く出てくるため、その他の基本的な単語力や文法の理解力が足りていないと、授業についていくのが難しくなってきます。必要に応じて、事前にテキストに目を通して単語を確認しておく、授業後に分からなかった箇所を再確認しておくことをおすすめします。						
《履修に当たっての留意点》						
グローバル化している現代社会において、英会話はコミュニケーションスキルとして必要となってきました。臨床現場や海外研修時に、英語で対応できるスキルを身に付けることで、より充実した、楽しい時間を過ごすことができます。体調管理には気を付けて、欠席をしないようにしてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者対応に必要な自己紹介、医療専門職や診療科を知ることができる。	テキスト、辞書		テキストを見ておく
		各コマにおける授業予定	Ch. 1 - 自己紹介、医療専門職や診療科についての単語			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者対応に必要な方向や道案内について理解し、院内を英語で案内することができる。	テキスト、辞書		前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 1 - 方向や道案内について・患者に院内を案内する			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者対応に必要な体の部位、一般的な痛みや症状についての単語や表現を知ることができる。	テキスト、辞書		前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 2 - 体の部位、一般的な痛みや症状についての単語や表現を学ぶ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者対応に必要な基本的な診断や、患者の訴えや症状を聞き基本的な診断や、患者の訴え症状を知ることができる。	テキスト、辞書		前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 2 - 基本的な診断や、患者の訴えや症状を聞き、情報収集する方法を学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者対応に必要な診断申込書に関する英語を知ることができる。	テキスト、辞書		前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 3 -患者の診断申込書に関する英語について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療の現場で患者対応する際に必要となる基礎知識と英語コミュニケーションを知ることができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 3 - 患者に診断申込書を書いて貰う際の会話&ロールプレイ(炉zh)。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者対応に必要な疾患名、臓器の名称、生活習慣についての単語を知ることができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 4 - 疾患名、臓器の名称、生活習慣についての単語		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者対応に必要な英語コミュニケーションを知ることができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	中間テスト。Ch. 4 - 患者から病歴、家族歴、生活習慣について聴取する&ロールプレイ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療の現場で必要となる病室内や病棟の規則について知ることができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 5 - 病室内や病棟の規則について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者を病室に案内する手続き&病棟規則や器具の使い方を知ることができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 5 - 患者を病室に案内する手続き&病棟規則や器具の使い方の説明をする。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常生活動作(ADL介助)に関する問診方法について知ることができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 6 - 日常生活動作(ADL介助)に関する問診方法について学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	バイタルサインを測定する際の対応を知ることができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 7 - バイタルサインを測定する際の患者への対応について学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療機関の一般的な検査や処置についての単語を知ることができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 8 - 医療機関の一般的な検査や処置についての単語知識		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査時に患者への指示や説明をする方法を知ることができ、ロールプレイができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	Ch. 8 - 検査時に患者への指示や説明をする方法を学ぶ&ロールプレイ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	今までの授業で学んだ英語フレーズを話すことができる。	テキスト、辞書	前回授業の復習
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験(50分)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学VI		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	左 明	実務経験とその関連資格	医学博士 長年に渡る医療系専門学校等での、解剖生理学の教授経験あり 「早わかり解剖学ハンドブック」など医学の専門書の監修・執筆			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の人体についての知識の基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 解剖生理学VIでは、各内分泌・代謝の構造と機能を説明できる。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 早わかり生理学ハンドブック 孫 明洲著 ナツメ社						
《授業外における学習方法》						
テキストと参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。 授業終了後に問題集(事前配布)と国家試験の過去問を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問し、その理解を高めること。また、積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。						
《履修に当たっての留意点》						
①知識は楽にして身に付きません。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要です。 ②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなりますよ。 ③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れません。本気に看護を目指しているのであれば、頑張れ!						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	自律神経の構造と機能を説明できる。 自律神経の神経伝達物質と受容体を略説できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第6章 内臓機能の調節(一):自律神経による調節			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホルモンと標的器官、ホルモンの作用、ホルモンの化学構造を概説できる。 視床下部と下垂体ホルモンの種類と作用を説明できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第6章 内臓機能の調節(二) 内分泌その1:視床下部、下垂体			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	それぞれの内分泌腺から分泌されたホルモンの名称、そのホルモンの作用と分泌促進因子を説明できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第6章 内臓機能の調節(三) 内分泌その2: 甲状腺、副甲状腺(上皮小体)、			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	それぞれの内分泌腺から分泌されたホルモンの名称、そのホルモンの作用と分泌促進因子を説明できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第6章 内臓機能の調節(四) 内分泌その3:膵臓、副腎			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	それぞれの内分泌腺から分泌されたホルモンの名称、そのホルモンの作用と分泌促進因子を説明できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第6章 内臓機能の調節(五) 内分泌その4:性腺、その他の内分泌腺・内分泌細胞			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホルモン分泌の調節方法を概説できる。 ホルモンによる糖・カルシウムの調節、高血圧をきたすホルモンなどを説明できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。
		各コマにおける授業予定	第6章 内臓機能の調節(六) 内分泌その5:ホルモン分泌の調節方法、ホルモンによる調節の実際		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝と運動、体温とその調節について説明することができる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。
		各コマにおける授業予定	第9章 代謝と運動、体温とその調節		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌・代謝の構造と機能をまとめることができる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	保健体育		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	体育室・教室
担 当 教 員	織田 修輔	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
身体機能の向上を図り、健康の諸問題について、運動、栄養、活動を中心に学ぶ。人間生活における気分転換、活動の必要性を学ぶ。実技を中心に授業を実施する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験(50%) 実技 (50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
特になし。必要時に資料を配布する。						
《授業外における学習方法》						
基礎体力の向上を図るため、普段の生活習慣を整えておくこと。配布資料を読んで復習すること。						
《履修に当たっての留意点》						
演習においては積極的に行うこと。怪我のないよう注意して行うこと。体操服・体育館シューズで受講すること						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動の意義を説明できる。	配布資料		運動の重要性について事前に考えておく。
		各コマにおける授業予定	運動の意義、運動が人の身体面・精神面に及ぼす影響			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ラジオ体操が効果的にできる	配布資料		体力向上のために運動を行う。
		各コマにおける授業予定	ラジオ体操の意義、効果的な正しい体操			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳コンディネーショントレーニングを述べることができる。	配布資料		体力向上のために運動を行う。
		各コマにおける授業予定	脳コンディネーショントレーニングとは、トレーニングの実際			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーションゲームの意義を知り、楽しく安全に実施できる	配布資料		体力向上のために運動を行う。
		各コマにおける授業予定	レクリエーションの意義、レクリエーションを楽しく安全に実施する			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手具を使つての運動の意義と効果を理解・実施できる	配布資料		体力向上のために運動を行う。
		各コマにおける授業予定	手具を使つての運動の効果、手具を使った運動の種類、実施上の留意点、手具を使つての運動の実際			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ソフトエアロビクスと筋力トレーニングの効果と留意点について理解できる	配布資料	体力向上のために運動を行う。
		各コマにおける授業予定	ソフトエアロビクスと筋力トレーニングの効果と実施上の留意点		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ウォーキングエクササイズ、チェアエクササイズの効果を知り、実施できる	配布資料	体力向上のために運動を行う。
		各コマにおける授業予定	ウォーキングエクササイズとチェアエクササイズの効果、留意点と実施		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	まとめ	配布資料	体力向上のために運動を行う。
		各コマにおける授業予定	今までの授業の振り返り、終講試験(50分)		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態治療学Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	濱田智子/木元貴祥	実務経験とその関連資格	濱田:科医師(口腔外科)大学病院にて脳血管障害、循環器疾患、糖尿病等の全身疾患を有した有病者の急性期観血的処置治療や口腔顎顔面領域の診療に従事。 木元:薬剤師、国家試験対策講師			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。 病態治療学Ⅲでは脳神経機能障害、運動機能障害の病態と検査、治療について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験で評価する(濱田:50% 木元:50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
病態生理学(医学書院) 濱田:運動器(医学書院) 木元:脳・神経 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
常に予習復習を心がけてください。文字だけでなく映像でイメージして理解しようと努力してください。						
《履修に当たっての留意点》						
各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系機能障害の病態について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習	
		各コマにおける授業予定	神経系機能障害 症状とその病態			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系機能障害の検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	神経系機能障害 検査と治療			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	調節機能(神経系)障害 脳血管障害			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳腫瘍、頭部外傷の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	神経系機能障害 脳腫瘍、頭部外傷			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経の変性疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	神経系機能障害 脳神経の変性疾患			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	神経系機能障害 脊髄疾患		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経、筋疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	神経系機能障害 神経、筋疾患		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害 骨折		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折 大腿骨頸部骨折の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害 骨折 大腿骨頸部骨折 人口骨頭置換術		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	捻挫、脱臼、打撲の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害 捻挫、脱臼、打撲		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎損傷の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害 脊椎損傷		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害 椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性関節リウマチ、変形性関節症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害 慢性関節リウマチ、変形性関節症		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨腫瘍の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害 骨腫瘍		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経機能障害、運動機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト	本日の学習テーマの予習
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	情報倫理		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 水曜3,4限	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担 当 教 員	BSC所属講師	実務経験と その関連資格	学校法人滋慶学園の職員。			
《授業科目における学習内容》						
情報社会において、正しい情報を選択するための基礎知識と方法を学ぶ。また、多くのプライベートな情報を扱う職業に就くものとして、倫理的な判断をするための基本的姿勢や留意点について理解しましょう。						
《成績評価の方法と基準》						
課題・小テスト点((50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
イーラーニングテキスト 対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。						
《授業外における学習方法》						
毎回の講義をふまえ、日々のSNS活用にも活かしてください。						
《履修に当たっての留意点》						
看護学生は実習などにおいて、多くの個人情報を扱います。SNSの取り扱いを中心に、倫理的な行動ができるよう意識して臨んでください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	講座を受講する意義を理解し、PCの基本操作ができる	computer career training入門1		イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	CCT講座を受講する意義、eラーニングテキストのログイン、受講時の注意点等、検索力、ICT活用に関するアンケート			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる	computer career training入門2		タイピング練習をすることで予習復習を行う。
		各コマにおける授業予定	インターネットの情報を理解し、かつ、安全にルールに従ったインターネット利用ができる知識や能力を身につける、タイピングを学ぶ意義、タイピングの基礎			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	PCトラブルを解決することができる	computer career training入門3		イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	今後起こるであろう様々なPCでのトラブルについて対処方法をネットで調べ解決する			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	AI(人工知能)に関する正しい情報や知識を身につけ、適正かつ有効に活用できる	AIリテラシー		イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会でのAI活用事例、AIでできること・できないこと、画像認識体験、AIの欠点や問題点、ディープラーニングの仕組み			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	情報化社会のモラルとセキュリティについて正しく理解できる	情報モラル&情報セキュリティ		前回講義内容の復習、教科書の予習
		各コマにおける授業予定	情報モラルとは/情報セキュリティ対策が必要な理由			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	ネット社会に潜む危険と対策について正しく理解できる	情報モラル&情報セキュリティ	前回講義内容の復習、教科書の予習
		各コマにおける授業予定	ウィルスについて/不正アプリやネット広告の被害に遭わないために/パスワード漏洩について、ネットショッピングトラブル対応等		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	モバイル機器の活用と管理について正しく理解できる	情報モラル&情報セキュリティ	前回講義内容の復習、教科書の予習
		各コマにおける授業予定	オンライン授業での注意点/安全なWi-fiの使い方/スマホカメラの注意点/スマホ紛失について 等		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	Webによるコミュニケーションについて正しく理解できる	情報モラル&情報セキュリティ	前回講義内容の復習、教科書の予習
		各コマにおける授業予定	情報の信ぴょう性を見極める/SNSで情報を発信するメリット/クラウドを使いこなすメリット/SNSのリスク 等		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態治療学V		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	土井 久也	実務経験と その関連資格	医師			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。 病態治療学Vでは排泄機能障害の病態と検査、治療について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
病態生理学(医学書院) 腎・泌尿器 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
解剖図を描き、その病態を理解する。 正常な臓器の機能の、どこがどのように障害される病気なのかを理解できるように学習する。その上で、症状、検査、治療の理解へと進むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄機能障害のと検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習	
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害 泌尿器系の検査(腎機能検査、経尿道的検査など)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系の主な疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害 泌尿器系の主な疾患、症状、検査、治療			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系の主な疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害 泌尿器系の主な疾患、症状、検査、治療			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎臓の主な疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害 腎臓の主な疾患、症状、検査、治療			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	悪性腫瘍の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害 悪性腫瘍(人工膀胱 尿路変更など)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	糸球体疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害 糸球体疾患		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄機能障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害 腎不全 透析 腎移植		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	左 明	実務経験とその関連資格	医学博士 長年に渡る医療系専門学校等での、解剖生理学の教授経験あり 「早わかり解剖学ハンドブック」など医学の専門書の監修・執筆			
《授業科目における学習内容》 看護の対象である人間の人体についての知識の基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 解剖生理学 I では、総論・生殖器について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》 講義終了時の終講試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 早わかり生理学ハンドブック (ナツメ社)						
《授業外における学習方法》 テキストと参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。 授業終了後に問題集(事前配布)と国家試験の過去問を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問し、その理解を高めること。また、積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。						
《履修に当たっての留意点》 ①知識は楽にして身に付きません。医学基礎知識を習得するには努力が必要です。②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなりますよ。③病理や臨床では、解剖学の知識がなければ語れません。本気で看護を目指しているのであれば、頑張り！						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学を学ぶ重要性を説明できる。	テキスト、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第1章 解剖学・生理学の概観 解剖学的用語			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の基本構造と基本機能について説明できる。	テキスト、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第1章 素材からみた人体 細胞の基本的構造と機能			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホメオスタシス フィードバック機構について説明できる。	テキスト、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第1章 ホメオスタシス フィードバック機構			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織(上皮・支持・筋・神経)について説明できる。	テキスト、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第1章 組織とは 組織(上皮・支持・筋・神経)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	男性生殖器の構成と働きを説明できる。	テキスト、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第10章 生殖・発生(一):生殖器の構造と機能 男性の生殖器			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性の生殖器の構成と働きを説明できる。月経周期におけるホルモン・卵巣と子宮内膜の周期的変化を説明できる。	テキスト、参考書	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第10章 生殖・発生(二):女性の生殖器		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの染色体、性決定、受精、着床、三層性胚盤、各組織・器官の由来を説明できる。	テキスト、参考書	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第10章 生殖・発生(三):発生		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖生理の基礎知識と生殖・発生の仕組みをまとめることができる	テキスト	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床薬理学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	木元 貴祥	実務経験と その関連資格	薬剤師として勤務後、国家試験対策講師として勤務		

《授業科目における学習内容》

薬物の科学的性質と人体への影響、薬物の吸収過程、人体への作用、機能障害への治療としての薬理作用について学ぶ
 1. 薬物の化学的性質と人体への影響について理解できる 2. 薬物の吸収過程、人体への作用について理解できる
 3. 機能障害への治療としての薬理作用について理解できる

《成績評価の方法と基準》

終講試験で評価を行う。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院)
 今日の治療薬 (南江堂)

《授業外における学習方法》

予習復習は必ず行う。薬剤写真が掲載されているものは、写真で確認し理解する事が良い。
 まだ履修していない疾患であっても、調べ薬剤の作用メカニズムと効果・副作用の理解につなげる。

《履修に当たっての留意点》

薬剤はカタカナ表記がほとんどで、覚える苦勞する。そのため、病態と薬理作用を結びつけて理解する事。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 薬理学の基礎知識を抽出し、ノートにまとめることができる。	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院) 今日の治療薬(南江堂) プリント	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院) を読む
	各コマにおける授業予定	薬理学総論 薬理学の基礎知識		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 対症療法薬の説明が出来る。	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院) 今日の治療薬(南江堂) プリント	配布されたプリント内容を中心に、系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院)で確認しながら復習する。
	各コマにおける授業予定	臨床薬理学 対症療法薬		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 疾患に応じた薬剤と薬効のメカニズム・副作用がノートにまとめられる。	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院) 今日の治療薬(南江堂) プリント	配布されたプリント内容を中心に、系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院)で確認しながら復習する。
	各コマにおける授業予定	臨床薬理学 主要疾患 消化管		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 疾患に応じた薬剤と薬効のメカニズム・副作用がノートにまとめられる。	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院) 今日の治療薬(南江堂) プリント	配布されたプリント内容を中心に、系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院)で確認しながら復習する。
	各コマにおける授業予定	臨床薬理学 主要疾患 感染症		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 疾患に応じた薬剤と薬効のメカニズム・副作用がノートにまとめられる。	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院) 今日の治療薬(南江堂) プリント	配布されたプリント内容を中心に、系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院)で確認しながら復習する。
	各コマにおける授業予定	臨床薬理学 主要疾患 腎臓病 糖尿病		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾患に応じた薬剤と薬効のメカニズム・副作用がノートにまとめられる。	系統看護学講座別巻 臨床薬理学(医学書院)今日の治療薬(南江堂)プリント	配布されたプリント内容を中心に、系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院)で確認しながら復習する。
		各コマにおける授業予定	臨床薬理学 主要疾患 骨粗鬆症 関節リュウマチ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾患に応じた薬剤と薬効のメカニズム・副作用がノートにまとめられる。	系統看護学講座別巻 臨床薬理学(医学書院)今日の治療薬(南江堂)プリント	配布されたプリント内容を中心に、教科書で確認しながら復習する。
		各コマにおける授業予定	臨床薬理学 主要疾患 パーキンソン病 アルツハイマー		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬理学の基礎知識や疾患に応じた薬剤と薬効のメカニズム・副作用について記述でき、まとめることができる。	系統看護学講座別巻 臨床薬理学(医学書院)今日の治療薬(南江堂)プリント	配布されたプリント内容を中心に、系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院)で確認しながら復習する。
		各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	濱田 智子	実務経験とその関連資格	歯科医師(口腔外科)大病院にて脳血管障害、循環器疾患、糖尿病等の全身疾患を有した有病者の急性期観血的処置治療や入院下の全身管理下に口腔顎顔面領域の診療に従事。			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の人体についての知識の基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。解剖生理学Ⅲでは、脳神経・運動器について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 早わかり生理学ハンドブック (ナツメ社)						
《授業外における学習方法》						
授業中に配布された重要ポイントをまとめたプリントについてよく復習して、理解を深めてください。						
《履修に当たっての留意点》						
人体の機能分野の対象は広く、キーワードはこの科目の学習すべき項目で試験の出題範囲ですが、講義では限られた項目しか取り扱えません。興味をもった分野は自分でさらに学習して下さい。疑問がありましたら積極的に質問して下さい						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経系と末梢神経系の構成を説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分	
		各コマにおける授業予定	第8章 神経解剖学概論			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。	PC、プロジェクター、ハサミ、カッター、のり、色鉛筆、画用紙	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分	
		各コマにおける授業予定	第8章 脳室、髄膜、脳脊髄液循環について学ぶ。実習では脳の断面の模型を作製し、脳脊髄液の流れを理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	ニューロンの構造、グリア細胞の種類と役割、髄鞘の構造について説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分	
		各コマにおける授業予定	第8章 神経系を構成する細胞の構造と働きを学ぶ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経伝達物質による神経機能制御の基本的な仕組みを説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分	
		各コマにおける授業予定	第8章 脳の神経化学的構成。シナプス・神経伝達物質について学ぶ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	大脳皮質、大脳辺縁系の構成を説明できる。大脳皮質の機能局在を説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分	
		各コマにおける授業予定	第8章 大脳皮質の区分と大脳辺縁系の構造と機能について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳幹の構造と機能を説明できる。小脳の構造と機能を説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第8章 脳幹と小脳の構造と機能について学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経と神経叢の構成及び主な骨格筋支配と皮膚分布(デルマトーム)を説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第8章 脊髄の構造と脊髄神経について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	随意運動の発現機構を錐体路を中心として説明できる。	PC、プロジェクター、ハサミ、カッター、のり、色鉛筆、画用紙	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第8章 運動伝導路について学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢からの感覚を伝える伝導路の名称と構造を理解し、説明できる。	PC、プロジェクター、ハサミ、カッター、のり、色鉛筆、画用紙	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第8章 反射路、上行性伝導路について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚路の障害部位と視野欠損について説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第8章 眼の構造と視覚		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚・平衡覚の伝導路、味覚・嗅覚伝導路を説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第8章 耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚器の構造、嗅覚器の構造		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と関節の構造と機能を説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第7章 身体の支持と運動(一): 骨と関節(骨の連結)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	主な骨と関節を説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第7章 身体の支持と運動(二): 主な骨と関節 骨模型で実習		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨格筋の収縮装置、骨格筋細胞の興奮から収縮するまでのメカニズムを説明できる。等尺性収縮と等張性収縮の特性を簡略に説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第7章 身体の支持と運動(三): 筋の構造と筋収縮の生理		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経・運動器をまとめることができる	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	社会福祉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	中川るみ	実務経験と その関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士、日本社会福祉士会理事、 京都市精神医療審査会委員など			
《授業科目における学習内容》						
社会福祉の概念とその理念、社会福祉を实践するための制度と根拠、その中での看護師の役割(保健医療から福祉への連携)を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
医学書院系統看護学講座22「社会保障・社会福祉」(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
授業中に配布した練習問題を復習						
《履修に当たっての留意点》						
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉を哲学的な視点でとらえ、その実践としての保障制度を理解する ・今後も続く少子高齢の加速がもたらす問題、経済成長率の低下がもたらす問題、雇用や所得の変化や格差がもたらす問題、国の基盤を揺るがす問題など、現代社会がかかえる問題について、専門職をめざす者として普段から興味をもつこと 						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉の理念、歴史、福祉六法が理解できる	社会保障・社会福祉(医学書院)	履修範囲の予習	
		各コマにおける授業予定	1. 社会福祉の理念、歴史、福祉六法 2. 社会福祉の行政・財政			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の変化と社会保障社会福祉の動向が理解できる	社会保障・社会福祉(医学書院)	履修範囲の予習	
		各コマにおける授業予定	1. 現代社会の変化 (人口、地域社会、家族・個人、経済状況、雇用状況) 2. 社会保障・社会福祉の動向			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国民皆保険、高齢者医療制度、診療報酬と薬価基準、介護保険制度の背景と制度の概要が理解できる	社会保障・社会福祉(医学書院)	履修範囲の予習	
		各コマにおける授業予定	1. 医療保障、介護保障 2. 医療保障制度としての国民皆保険 3. 前期高齢者医療の財政調整			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	所得の保障と年金保険制度、社会手当、労働保険制度、貧困・低所得問題と対策、生活保護制度の動向が理解できる	社会保障・社会福祉(医学書院)	履修範囲の予習	
		各コマにおける授業予定	1. 所得保障、公的扶助 2. 所得補償制度、 3. 年金保険制度 4. 貧困・低所得者問題(7つの扶助、貧困低所得者対策の見			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者、障害者を中心とした社会保障の分野とサービスについて理解できる	社会保障・社会福祉(医学書院)	履修範囲の予習	
		各コマにおける授業予定	1. 高齢者の状況、高齢者福祉の施策、老人保健事業 2. 障害者福祉の理念、新たな法体系の整備、地域づくり			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 児童を中心とした社会保障の分野とサービスについて理解できる	社会保障・社会福祉(医学書院)	履修範囲の予習
	各コマにおける授業予定	1. 児童とその育ちの環境、児童にかかわる法と施策、ひとり親問題、児童虐待対策、児童買春、ポルノに係る処罰・規制 2. 児童の保護、人権、貧困への対応		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 社会福祉の実践、生活支援の展開のための集団援助技術、間接援助技術・関連援助技術が理解できる	社会保障・社会福祉(医学書院)	履修範囲の予習
	各コマにおける授業予定	1. 社会福祉の実践と医療・看護 2. 生活支援の展開、 3. 集団援助技術、 4. 間接援助技術・関連援助技術		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 社会福祉援助、地域医療連携の課題が理解できる	社会保障・社会福祉(医学書院)	履修範囲の復習
	各コマにおける授業予定	1. 社旗福祉援助の検討課題 2. 地域医療連携の課題 3. 終講試験(50分)		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	栄養と代謝		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	武中 渉	実務経験と その関連資格	大阪大学 大学院(博士課程)			
《授業科目における学習内容》						
人体の構成部分である化学物質の性状、その分布および代謝について学び、栄養成分の体内での物質代謝、健康維持のための食生活および機能に障害を持つ対象の健康状態改善のための食生活について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座専門基礎分野人体の構造と機能③ 栄養学(医学書院) 系統看護学講座専門基礎分野人体の構造と機能① 解剖生理学(医学書院) 糖尿病食事療法のための食品交換表(文光堂)						
《授業外における学習方法》						
指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。テキストや講義の中で理解できなかった箇所は早めに聞きに来るなどして解決し、積極的な自己勉学に取り組んでください。						
《履修に当たっての留意点》						
生化学、生物学を主とする科目であり、基礎学として学ぶ。人体に必要な栄養の基礎知識を理解し、栄養学に関する最新情報を身に付け、食生活の自己管理や臨床に活用できるよう取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養ケアにおける看護の役割が説明できる	・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	栄養と栄養素の定義、今日の栄養問題、食生活の変遷と栄養の問題 看護の中での栄養の役割			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖質、脂質、タンパク質・アミノ酸の種類やはたらきが理解できる	・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	栄養素の種類とはたらき① 糖質の種類と働き、脂質の種類とはたらき、タンパク質・アミノ酸の種類とはたらき			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	ビタミンの種類やはたらきが理解できる。	・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	栄養素の種類とはたらき② ビタミンの種類とはたらき			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ミネラル、食物繊維の種類やはたらきが理解できる。 水の分布やはたらき、出納について理解できる。	・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	栄養素の種類とはたらき③ ミネラルの種類とはたらき、食物繊維の種類とはたらき 生体内の水の分布やはたらき、水分出納			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	食物の消化の仕組み、栄養素の吸収と代謝の機構が理解できる。	・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	食物の消化の仕組み、栄養素の吸収と代謝の機構			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	エネルギー代謝のメカニズムがわかる。 基礎代謝量、推定エネルギー必要量を算出することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	3大栄養素のエネルギー エネルギー代謝の過程とエネルギー消費		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本人の食事摂取基準の概要を説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	食事摂取基準の仕組みと食品の分類		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養ケアマネジメントの意義と構造、経過がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	栄養ケアの意義と構造、栄養スクリーニングの方法、栄養ケア計画、栄養ケアマネジメントの構造・経過・成果の評価		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養状態の評価の意義がわかる。栄養アセスメントの方法がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	栄養アセスメントの方法		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児期の栄養の特徴が説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ライフステージと栄養①(乳児期～思春期)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人期、高齢期の栄養の特徴が説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ライフステージと栄養②(成人期～高齢期)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養補給方法と注意点が説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	経腸栄養法、経静脈栄養法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器疾患患者、消化器疾患患者の食事療法の特徴がわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	循環器疾患患者の食事療法 消化器疾患患者の食事療法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養・代謝疾患、腎疾患患者の食事療法の特徴がわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	栄養・代謝疾患患者の食事療法 腎疾患患者の食事療法		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	現在の栄養問題から生活習慣予防、食生活改善の施策の意義がわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 ③ 栄養学 ・人体の構造と機能 ① 解剖生理学 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 ・配布資料 	指定したテキストを事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生活習慣病予防、食生活改善の施策、食の安全 まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	公衆衛生学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	谷 康平	実務経験とその関連資格	Stanford大学大学院research fellow 社会医学環境衛生研究所所長など歴任			
《授業科目における学習内容》						
<p>集団の健康の保持増進のための考え方や地域の各種団体との連携、多職種連携・協働による保健活動の実際を学習する。公衆衛生活動における看護師の役割について学習する。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>終講試験(100%)</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学(医学書院) 電子テキスト:公衆衛生が見える (メディックメディア)</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>社会・地域の課題に関心を持って、情報を集める。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>辞書及び上記テキストを必ず持参してください。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史がわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える 	公衆衛生の①理念②目的③方法④健康の概念⑤プライマリーヘルスケア について調べまとめる。	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の理念、健康の概念、権利とプライマリーヘルスケア 公衆衛生の歴史 ヘルスプロモーション			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	公衆衛生の活動対象としくみがわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える 	前回の授業の復習 新聞記事に目を通す	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の活動対象 政策展開 地方自治体の役割 保健所の役割 専門職の働き 多職種連携と協働			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	集団の健康をとらえるための手法がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える 	前回の授業の復習	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の場での疫学、保健統計			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康と環境の関連についてわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える 	前回の授業の復習	
		各コマにおける授業予定	環境保健 室内環境の安全 家庭用品の安全			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	食品の安全について説明できる	<ul style="list-style-type: none"> ・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える 	前回の授業の復習	
		各コマにおける授業予定	食品衛生			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 公衆衛生における感染症とその対策についてわかる	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	日本における感染症予防対策 院内感染と予防 公衆衛生上の重要な感染症と対策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 健康格差の実態と格差解消に向けたとりくみの必要性がわかる。グローバル化による保健システムの変貌が説明できる。	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	公衆衛生の国際化 健康格差 国際保健共通目標、課題		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域における公衆衛生の実践活動がわかる。母子保健活動が説明できる。	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	公衆衛生看護 保健指導の原理原則 母子保健		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 成人保健活動が説明できる。	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	成人保健		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 高齢者保健活動が説明できる。	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	高齢者保健		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神保健活動が説明できる	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	精神保健活動が説明できる		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 障がい者保健活動、難病保健活動が説明できる	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	障がい者保健・難病保健		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 学校保健と地域保健の連携について説明できる	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	学校保健		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 職場における保健と地域保健の連携について説明できる	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	職場における健康 産業保健		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域保健における健康危機管理について説明できる。災害時の保健活動が説明できる。	・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③公衆衛生学 ・公衆衛生が見える	前回の授業の復習
	各コマにおける授業予定	健康危機管理、災害保健 まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態治療学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	谷 康平	実務経験と その関連資格	Stanford大学大学院卒 職歴: 社会医学環境衛生研究所など			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。 病態治療学 I では病理学総論について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
病理学(医学書院)、病態生理学(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
病態をイメージしながら理解してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	機能障害の成り立ちについて説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	病理学総論 病理学とは			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	退行性病変の成り立ちについて説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	病理学総論 退行性病変			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環障害の成り立ちについて説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	病理学総論 循環障害			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	進行性病変の成り立ちについて説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	病理学総論 進行性病変			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	炎症の成り立ちについて理解できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	病理学総論 炎症			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	腫瘍の成り立ちについて説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	病理学総論 腫瘍		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	病因について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	病理学総論 病因論		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間の機能障害の成り立ちと、その機能障害に対する治療をまとめることができる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》						
病院の概要、対象の療養環境を知り、コミュニケーションを通して対象の思いを知る。また、安全・安楽な日常生活援助を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。						
《成績評価の方法と基準》						
実習評価 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ						
《授業外における学習方法》						
実習時間:10日間(2単位 80時間) (8時30分～17時15分) ・臨地実習:8日間(1.6単位 64時間) ・実践活動の場以外で行う学習:2日間(0.4単位 16時間)						
《履修に当たっての留意点》						
主体的に取り組む、健康に留意すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	看護学生としてのマナー・態度について表現することができる患者とのコミュニケーション時のロールプレイ、意図的な情報収集の方法をイメージすることができる	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	事前学習 追加学習 実習記録	
	各コマにおける授業予定	実践活動の場以外で行う学習1日目 患者情報伝達、看護学生としてのマナー・態度についてGW、同意書説明の練習。患者とのコミュニケーション時のロールプレイ、意図的な情報収集の方法				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	病院の機能・構造について理解し、看護師の役割と責任について考えようとしている。	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	追加学習 実習記録	
	各コマにおける授業予定	病棟実習1日目 ・病院・病棟のオリエンテーション/患者紹介				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	実施(見学)した看護と対象の反応を客観的にとらえ、安全安楽な日常生活援助を考えることができる。対象の状況を理解し、対象に応じたコミュニケーションを工夫することができる。	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	追加学習 実習記録	
	各コマにおける授業予定	病棟実習2日目 ・日常生活援助の見学 ・対象とのコミュニケーション				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	実施(見学)した看護と対象の反応を客観的にとらえ、安全安楽な日常生活援助を考えることができる。対象の状況を理解し、対象に応じたコミュニケーションを工夫することができる。	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	追加学習 実習記録	
	各コマにおける授業予定	病棟実習3日目 ・日常生活援助の見学・実施 ・対象とのコミュニケーション				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	実施(見学)した看護と対象の反応を客観的にとらえ、安全安楽な日常生活援助を考えることができる。対象の状況を理解し、対象に応じたコミュニケーションを工夫することができる。	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	追加学習 実習記録	
	各コマにおける授業予定	病棟実習4日目 ・日常生活援助の見学・実施 ・対象とのコミュニケーション ・中間カンファレンス				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標 実施(見学)した看護と対象の反応を客観的にとらえ、安全安楽な日常生活援助を考えることができる。対象の状況を理解し、対象に応じたコミュニケーションを工夫することができる。	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	追加学習 実習記録
	各コマにおける授業予定	病棟実習5日目 ・日常生活援助の見学・実施 ・対象とのコミュニケーション ・患者の生活状況や思いをふまえて、必要と考える日常生活援助について発表		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標 実施(見学)した看護と対象の反応を客観的にとらえ、安全安楽な日常生活援助を考えることができる。対象の状況を理解し、対象に応じたコミュニケーションを工夫することができる。	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	追加学習 実習記録
	各コマにおける授業予定	病棟実習6日目 ・日常生活援助の見学・実施 ・対象とのコミュニケーション		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標 実施(見学)した看護と対象の反応を客観的にとらえ、安全安楽な日常生活援助を考えることができる。対象の状況を理解し、対象に応じたコミュニケーションを工夫することができる。	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	追加学習 実習記録
	各コマにおける授業予定	病棟実習7日目 ・日常生活援助の見学・実施 ・対象とのコミュニケーション		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標 実施(見学)した看護と対象の反応を客観的にとらえ、安全安楽な日常生活援助を考えることができる。対象の状況を理解し、対象に応じたコミュニケーションを工夫することができる。	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	追加学習 実習記録
	各コマにおける授業予定	病棟実習8日目 ・日常生活援助の見学・実施 ・対象とのコミュニケーション ・病棟最終カンファレンス		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標 看護実践を振り返り、自己の課題を明確にしている。	受け持ち患者 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	追加学習 実習記録
	各コマにおける授業予定	実践活動の場以外で行う学習2日目 チンゲールの理論など学習した知識をふまえて、看護実践を振り返り、自己の課題を明確にする。		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態治療学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	福本煌/濱田智子	実務経験とその関連資格	福本:国家試験対策講師 濱田:歯科医師(口腔外科)大学病院にて脳血管障害、循環器疾患、糖尿病等の全身疾患を有した有病者の急性期観血的処置治療や口腔顎顔面領域の診療に従事			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。 病態治療学Ⅱでは呼吸機能障害、循環機能障害の病態と検査、治療について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験で評価する(福本:50% 濱田:50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
濱田:呼吸器(医学書院) 福本:循環器(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害 症状とその病態生理および処置①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害 症状とその病態生理および処置②			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害 感染症(症状・検査・診断基準・治療)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	間質性肺炎、呼吸不全の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害 間質性肺炎、呼吸不全(症状・検査・診断基準・治療)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、(症状・検査・診断基準・治療)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	肺循環障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害 肺循環障害(肺梗塞、肺塞栓症)(症状・検査・診断基準・治療)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	肺腫瘍の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害 肺腫瘍(癌、中皮腫)(症状・検査・診断基準・治療)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	心不全の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	循環機能障害 心不全の病態・検査・治療		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高血圧の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	循環機能障害 高血圧の病態・検査・治療		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	虚血性心疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	循環機能障害 虚血性心疾患(病態・検査・治療)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	不整脈害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	循環機能障害 不整脈の病態・検査・治療		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	弁膜症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	循環機能障害 弁膜症の病態・検査・治療		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	心筋症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	循環機能障害 心筋症(心臓移植)の病態・検査・治療		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	動脈系疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	循環機能障害 動脈系疾患(大動脈瘤・大動脈解離・動脈の閉塞性疾患)の病態・検査・治療		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害、循環機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	微生物学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	福本 皇	実務経験と その関連資格	国家試験対策講師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
<p>1.微生物の生態と人間への影響を学ぶ 2.感染のしくみと微生物感染を予防するしくみを学ぶ 3.微生物により引き起こされる病態と対処方法について学ぶ</p>						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ヌーヴェルヒロカワ ビジュアル微生物学 第2版						
《授業外における学習方法》						
テキストに書かれていることを、授業中に把握する。そのため、予習復習を行うことが大切。						
《履修に当たっての留意点》						
身近な生活を意識しながら受講すること。 身の回りの生活と感染を結びつけ、予防が確実にできるように学ぶこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物学を学ぶ意義や人を取り巻く様々な微生物の世界について説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	微生物学へのイントロダクション			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な微生物の概要について説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	微生物のアウトライン			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物の感染の要因と感染源/感染経路について説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	微生物と感染			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物の感染に関する免疫反応を説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	微生物と免疫			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	滅菌と消毒の違いと方法が説明できる 感染症の予防の基本が説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	滅菌と消毒/感染症の予防			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物の検査の概要が説明できる 化学療法の基本について説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	微生物の検査法/化学療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	グラム陽性菌・放線菌の特徴と概要が説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	細菌(グラム陽性菌・放線菌)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	グラム陰性菌・らせん菌の特徴と概要が説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	細菌(グラム陰性菌・らせん菌)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	スピロヘータ・マイコプラズマの特徴と概要が説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	細菌(スピロヘータ・マイコプラズマ)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	リケッチア・クラミジア・真菌・原虫の特徴と概要が説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	細菌(リケッチア・クラミジア)・真菌・原虫		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種ウイルスの特徴と概要が説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	ウイルス①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種ウイルスの特徴と概要が説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	ウイルス②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種ウイルスの特徴と概要が説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	ウイルス③		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種ウイルスの特徴と概要が説明できる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	ウイルス④		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物学の学習のまとめができる	教科書、プリント	事前に教科書を読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	微生物が人に及ぼす影響や特徴・概要のまとめ・終講試験(50分)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	基礎看護学実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	担当教員及び各実習 施設指導者	実務経験と その関連資格	担当教員:看護師、看護教育に従事 指導者:病院勤務			
《授業科目における学習内容》						
さまざまな発達段階、健康段階にある対象とコミュニケーションをとり、対象の暮らしに興味・関心を持ち理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
実習評価 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
看護学概論、基礎看護技術 I・基礎看護技術 II						
《授業外における学習方法》						
実習時間:5日間(1単位40時間) (8時30分から17時15分) ・介護老人保健施設:2日間(0.4単位16時間) ・老人福祉センター:1日間(0.2単位8時間) ・社会福祉施設 :1日間(0.2単位8時間) ・実践活動の場以外で行う学習:1日間(0.2単位8時間)						
《履修に当たっての留意点》						
主体的に取り組む、健康に留意すること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	さまざまな対象の暮らしの場の理解をまとめることができる さまざまな対象の状況に配慮しながら、対象に応じたコミュニケーション方法を身につける	老人保健施設で働く人々、老人保健施設の利用者	事前学習 追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	老人保健施設 実習オリエンテーション、シャドーウィング、コミュニケーション			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	さまざまな対象の暮らしの場の理解をまとめることができる さまざまな対象の状況に配慮しながら、対象に応じたコミュニケーション方法を身につける	老人保健施設で働く人々、老人保健施設の利用者	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	老人保健施設 シャドーウィング、コミュニケーション			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	さまざまな対象の暮らしの場の理解をまとめることができる さまざまな対象の状況に配慮しながら、対象に応じたコミュニケーション方法を身につける	老人福祉センターで働く人々、老人福祉センターの利用者	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	老人福祉センター 実習オリエンテーション、シャドーウィング、コミュニケーション			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	さまざまな対象の暮らしの場の理解をまとめることができる さまざまな対象の状況に配慮しながら、対象に応じたコミュニケーション方法を身につける	社会福祉施設で働く人々、社会福祉施設の利用者	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	社会福祉施設 実習オリエンテーション、シャドーウィング、コミュニケーション			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	他者の発表から、看護者としての在り方を理解することができる	実習施設での学び	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	実践活動の場以外で行う学習 グループワーク、自分の考えを発表、意見交換			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第7回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第8回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第9回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第10回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第11回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第12回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第13回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第14回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第15回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				